



○学級づくりには「愛のまなざし」を

雄武町立沢木小学校長 千葉 勝志

学級づくりという言葉は、「学級をどうつくるか」ということを意味します。この言葉には「力のある教師が、未熟な子どもをどのように教えていけば、よい学級がつけられるか。」というニュアンスがありはしないでしょうか。子どもの教育を考えたり、論じたり、実践したりするときに、暗々のうちに「教師は完全、子どもは未熟」という大前提ができてしまっていないでしょうか。この前提には大きな危険をはらんでいます。実は、「教師も未熟、子どもも未熟」というのが本当です。このような前提に立ったそのときから、学級づくりは本物になっていくのです。

私が学んだ玉川大学の小原国芳学長は、こう仰っていました。「進みつつある教師のみ人を教える権利あり」日常の学級経営が望ましくなされていなければ、よい授業はできません。また、不断の研鑽の積み重ねの中からしか、よい授業は生まれません。教師ならば、研究と修養の日々でありたいものです。また、恩師である野口芳宏先生は、こう仰っています。「教育とは人を幸せにすることですよ。人をより幸福にする。そのためにこそ教育が存在します。」なるほど。そうに違いないと私は確信しています。そうであるからこそ、私たち教師の日々の営みは、究極のところで教育された子どもたちの幸福の未来につながっていかなければならないのです。学級づくりの目指すところは、子どもたちのより幸せなよき未来です。そういう認識に立ったとき、初めて教育は重厚な意味を持ちます。

過去に、遊ぶことが大好きで、ちっとも勉強しない子がいました。教師や親の願いとは裏腹に、自分の興味と関心のあることばかりに夢中で、大人の言うことを聞きませんでした。いわゆる手のかかる子です。しかし、当時の先生はこまごました干渉はせず、温かいまなざしで接し、親愛のことばを贈り続けました。「いいんだよ。自分のペースでゆっくり、あわてずにやってみよう。」「がんばったね!」「できたじゃないか! 偉い偉い。」などと、どこまでも寄り添い続けました。「愛のまなざし」を贈り続けたのです。その子はやがて落ち着きを取り戻し、穏やかに学校生活を送りました。こういう励ましができるためには、その子に格別な愛のまなざしを向けていなければなりません。そして、励まされた子は、その愛のまなざしに対して嬉しくなるのです。なお、その子は後に教師となり、今なお活躍しています。

気になる子どもの行動の一つ一つに、あれこれ規制を加えていくことが教育なのではありません。成長には時間がかかります。教師は、子どもたちの人生の幸福実現の支援者でなければなりません。大らかな心を持って、長い目で子どもを見守ることが大切なのです。

▼鮭ザンギ丼で郷土愛を育む

「鮭ザンギ丼」という、インパクトのあるメニューは、5月15日の給食の献立。雄武町で水揚げされた鮭を大胆に使ったその姿は圧巻で、子どもたちの胃袋を鷲掴みにしていました。昼休み、お腹いっぱいになった子どもたちに「今日の給食美味しかったね。」と、話しかければ「そりゃ雄武で獲れた鮭だもんっ！」と自信満々の答えが返ってきます。



地産地消の取組は、子どもたちの健康な体だけでなく、郷土愛をも育む大きな成果を生んでいるようです。

きっと、いつの日か提供される側ではなく、提供する側として雄武町を支える人材も生まれてくるはずです。そう考えると地産地消の活動は地域活性化の起爆剤にもなります。今度はいつ食べることができるのでしょうか。またお目にかかれる日が楽しみです。

▼花いっぱい運動で笑顔いっぱい！

「庭は人なり」…それは、「毎日、目にする庭はそこに住む人を表

『沢木のいいところ』
私は、沢木のいいところについて母にインタビューをしました。(中略)
沢木の好きな食べ物をきくと「沢木で獲れた魚はどれも美味しいけど、特に鮭は一番美味しいと思う。」
「そう、私も鮭は美味しいと思います。」(中略)
私はインタビューしてみても沢木がもっと好きになりました。

し、同時に人格形成に大きく影響する」という意味で、美しく咲く花を見れば、人はいつもより優しい気持ちになれたり、心を落ち着かせたりすることができるのかもしれません。

先日、全校行事の「花いっぱい運動」が行われ、みんなで校庭にたくさんの花を植えました。「キレイだね♪」「元気に育ってね！」と、水と愛情をたっぷり注がれた花たちは、今日も沢木小学校を美しく彩ってくれています。きっと、子どもたち心の中にも、優しく素直で元気なお花がいっぱい咲くことでしょう！



▼子どもたちのサードプレイス

「家で過ごす自分」と「学校で過ごす自分」を毎日往復している子どもたちですが、時にはリフレッシュのための「サードプレイス」が必要になることもあります。そんな、子どもたちにとっての憩いの場が「沢木の公園」で、放課後には自然と仲間が集い、縦や横の関係を深めながら楽しい時間を過ごしているようです。時には、揉め事やぶつかり合いが発生することもあるようですが、そういった経験も人との距離感や自制心、思いやりの心を育むためには必要だったりします。

ただ、子どもたちだけでは抱えられない問題やトラブルに遭遇したときは、手を差し伸べて守ってくれる大人の存在が必要です。

「一人の子どもを育てるには一つの村が要る」これは、アフリカの諺ですが、大人の多様な視点と愛情の中で、子どもたちは社会のルールや大切な価値観を身に付けていきます。子どもたちの集う場所があり、それを温かく見守る大人たちがいる。学校でも、時折公園に足を運んで様子を見守っています。「沢木の公園」が今後も子どもたちのすてきなサードプレイスとなるよう、保護者の皆様、地域の皆様のご協力をよろしくお願いします。



7月の主な行事

7月1日	水	修学旅行(1日目)
7月2日	木	修学旅行(2日目)
7月3日	金	修学旅行回復休業日(6年)
7月6日	月	防犯教室 ※日程が変更になっています。
7月9日	木	参観日・懇談会
7月13日	月	プラスバンドBBBB演奏会
7月14日	火	全校朝会 芸術鑑賞(1~3年)
7月15日	水	陶芸教室(5~6年)
7月16日	木	沢木大漁祈願祭
7月17日	金	沢木神社祭
7月24日	金	1学期終業式

6月7日(日)に開催された、沢木小学校・沢木二自治会合同の大運動会は、子どもたちの笑顔がグラウンドいっぱいにはじけたすてきな運動会となりました。お子様を温かくサポートくださったご家庭の皆様、運動会を盛り上げ、子どもたちに熱いエールを送ってくださった地域の皆様、本当にありがとうございました。